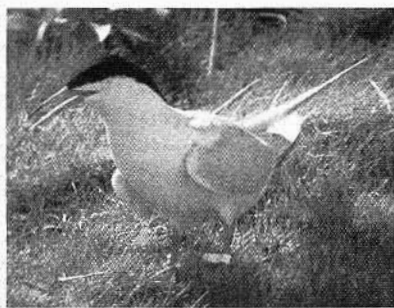


## ベニアジサシ 豪と沖縄の渡り実証 最大の繁殖地で営巣確認できず

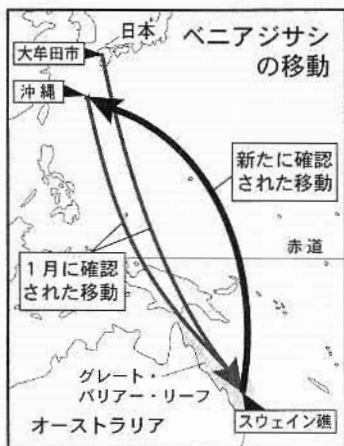
7月に行われた沖縄本島周辺のベニアジサシカメラ目録調査で、オーストラリアで足環を装着した個体の飛来が確認された。今年1月には、沖縄で足環を装着した個体がオーストラリアで捕獲され、沖縄の繁殖地と6千キロ離れたオーストラリアの越冬地間の往来が初めて実証された。また、この調査では観光客の影響で、日本最大の繁殖地が消滅していたことも判明した。ベニアジサシは世界的に生息数が少なく、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されている。この調査は、環境省から委託を受け実施した。

7月18～29日、沖縄本島周辺でオーストラリアの研究者らも参加し、尾崎清明標識研究室長、米田重

名護市屋我地島での調査の際、オーストラリアで足環が装着され



オーストラリアの足環をつけたベニアジサシ (7月24日 沖縄・屋我地島で)



また、今回の調査では沖縄本島周辺で約2千羽の生息と、141巣を確認した。3年前までは日本最大の繁殖地があった渡嘉敷村の無人島ナガヌヌ島では、巣が全く見つからず、観光客の来島の増加が影響していると考えられた。これを受け、今後、関係機関で対策が協議されることになった。

たベニアジサシ1羽が捕獲された。これは、今年1月8日に、今回調査に参加したオーストラリアの研究者们ら、グレート・バリアー・リーフ南部のスウェイン礁で足環を装着したうちの1羽だった。また、望遠鏡による観察では、同地で足環を装着した13羽が確認された。1月のオーストラリアの調査では、日本の繁殖地で足環を装着した18羽が捕獲されていることから(本紙156号参照)、沖縄の繁殖地とオーストラリアの越冬地が密接な関係にあることが証明された。